

# 千住の教育力

— 寺子屋から学校へ —



▲正木棟盛碑(四丁目水神社)



▲多坂梅里碑(源長寺)

**千**住は、江戸時代から現在に至るまで、多くの優れた教育者を輩出してきました。享保年間(1716~36年)には元信濃国上田の典医だった多坂梅里が、家塾を開き、50年にわたって子弟を教育しました。また、宝暦元年~明治20年代(1751~1886年頃)にわたって開かれていた正木塾群雀堂の二代目正木大助は、困難な寺子屋経営を続け、孝行の道をきわめたとして幕府よりその功績を称えられています。明治以降は、愛吟



▲東京電機大学 東京千住キャンパス(千住旭町5)

学校を設立した関澄タイや、千寿幼稚園・潤徳高等女学校・足立中学校・同商業学校を設立した堀内亮一、潤徳高等女学校の初代校長、足立学園中学校長などを歴任した牧野菊之助など、多くの教育者が活躍しました。

現在では、千住には五つの大学が集まり、さながら学園都市の様相を呈しています。